

第7回 蓄電池産業戦略検討官民協議会 議事要旨

日時：2023年4月25日（火） 17時00分～18時40分

場所：オンライン会議

議事要旨

「資料3：蓄電池産業戦略の関連施策の進捗状況 及び当面の進め方について【事務局資料】」につき、事務局より説明。メンバーからの発言要旨は以下のとおり。

1. 国内基盤拡充・次世代技術の開発

- 中小製造装置メーカーの支援について、経済安全保障上の観点だけでなく製造のサプライチェーン全体で支援していくことは非常に重要。また、効率的な製造工程や完成品の高性能化を達成することは排出削減につながり、LCAの観点からも整合的。
- 昨今は、半導体不足の影響もあり、以前よりも納期が長期化しており、工場立ち上げのネックとなる。製造プロセスにおけるキープロセスを定め、既存設備サプライヤーの製造能力の拡大、新規プレイヤーの戦略的育成が望まれる。
- 現在、蓄電池の主たる市場は、車載用、発電、通信情報等の社会インフラ向けとなっており、新しい用途の拡大は更なる市場の広がりには必須だと認識している。
- コストと、性能で先を走ることが大事。性能で、先で走るためには、研究開発は重要。文科省・JSTも電池について力を入れており、GTEXという基金を設置。日本の産業強化につながるよう基礎研究を行うので、経産省とも連携をしていく。

2. 人材育成・確保

- 関西で取組が着実に進んでいることは素晴らしい。
- まずは関西地域で、モデルケースを創出するという方向性だと思うが、その取組を他の地域にも展開し、全国大で人材育成の取組が進むことを期待。

3. グローバルアライアンス・上流資源の確保

- 資源の調達についても重要で海外との競争においてオールジャパンでやっていく必要がある。他方、スピードも重要だと思っており、まずはスピード感を持って進めるということも大事。
- EVの供給が拡大する中で、資源確保・資源リスクの回避は大きい課題であると認識しており、鉱山開発・出資に対して賛同。また、電池が将来どう進化するのかという観点において、資源の種類も変化することに対する想定も重要。

4. 国内の環境整備強化（サステナビリティの確保等）・国内市場の創出

- 国内の環境整備強化・市場の創出は当然大事であるが、国内市場を創出したとしても、最終的に長期的に確保できるかどうかは、製品の国際競争力があるかどうかで決まる。国内市場の創出と併せて海外市場での競争力を持つことを同時にやっていくことが重要。
- カーボンフットプリントについて、国際統一や相互認証が可能な仕組みの検討をお願いしたい。他方、バッテリーで先行の検討が進んでいるが、データ収集・交換についてもバッテリーにとどまらず、車全体で考えることが大事であり、その観点を入れたデータプラットフォームが重要。

○人権・環境デュー・ディリジェンスについては、重要な情報がサプライチェーンの最上流にあることが多いと認識。要求開始の時点で全ての関連データが求められているので、開始までに時間がかかるため、タイト。また、民間だけでは実体把握が困難なこともあるため、国主導の仕組みを期待する。

5. 蓄電池戦略推進のための会議体について

○会議体の見直しについて異論なし。